

10 月 2 日 年間第 27 主日

信仰と行い

ルカによる福音書 17 章 5 ～ 10 節

⁵使徒たちが、「わたしどもの信仰を増してください」と言ったとき、⁶主は言われた。「もしあなたがたにからし種一粒ほどの信仰があれば、この桑の木に、『抜け出して海に根を下ろせ』と言っても、言うことを聞くであろう。

⁷あなたがたのうちだれかに、畑を耕すか羊を飼うかする僕がいる場合、その僕が畑から帰って来たとき、『すぐ来て食事の席に着きなさい』と言う者がいるだろうか。⁸むしろ、『夕食の用意をしてくれ。腰に帯を締め、わたしが食事を済ますまで給仕してくれ。お前はその後で食事をしなさい』と言うのではなからうか。⁹命じられたことを果たしたからといって、主人は僕に感謝するだろうか。¹⁰あなたがたも同じことだ。自分に命じられたことをみな果たしたら、『わたしどもは取るに足りない僕です。しなければならないことをしただけです』と言いなさい。」

他の朗読：ハバクク 1：2, 3, 2：2～4 詩編 95：1, 2, 6～9 II テモテ 1：6～8, 13, 14

Lectio …読む

イエスは、これらのいくつかの短いやりとりの中にたくさんの教えを詰め込んでいます。この箇所には二つのテーマがあります。最初の段落は信仰にかかわるもので、その後は奉仕についてです。

信仰を求めている弟子たちのことから始めましょう。彼らの要求を順に並べてみると役立ちます。今日の福音朗読に先立つ箇所の中で、弟子たちは赦しについて、そして他の人の信仰を失わせることの重大さについて学んでいます。当時のユダヤの伝統に従えば、誰かを 3 回赦すことは尊敬すべきことだと考えられていました。しかし、イエスは彼の弟子たちに必要なだけ赦すように呼びかけます。弟子たちは、イエスについて行くには彼らがささげられるよりもずっと多くを要求されると分かり、もっと信仰を増すように言うのです。

イエスは、大切なのは神への純粋な信仰を持つことである、と答えます。どんなに小さくても構いません。純粋な信仰があれば、いつでも目を見張るようなことが起こり得ますし、また起こるのです。

それからイエスは奉仕についての話を展開します。彼の教えの中心は、神が神であるということだけで、私たちの奉仕に値するということです。神は私たちに負うものは何もありません。私たちは神に全てを負っています。この世的な態度は、自分がしたことに報いを求めます。私たちが神に仕えるときに、神が私たちに祝福してくれることを期待するのは大きな誘惑です。この態度は間違っていることをイエスは明確にします。感謝と愛の念から神に奉仕する中で、喜びを得ることこそが私たちが必要とするすべてなのです。

神の僕であることは、とりわけ、信仰の人であることを意味します。神に仕える正しい態度は私たちが謙虚にとどめ、私たちが助けてうぬぼれから守ってくれるのです。

Meditatio …黙想する

あなたの人生のこの瞬間において、本日の福音朗読のどの箇所が一番はっきりとあなたに話しかけているのでしょうか。

あなたは、自身を神の僕であると思いますか。なぜ神に仕えているのか考えてみましょう。愛と感謝から神に仕えることに満足していますか。それとも他人からの賞賛を求めていますか。

しばらく主を見つめながら時間を過ごしてみましょう。神にあなたの心を和らげてもらい、あなた

の信仰、奉仕、そして感謝が増すように、あなたを主の近くに引きよせてもらいましょう。

Oratio …祈る

この聖書朗読と黙想から、神へのあなたの応えについて祈りの内に考えてみましょう。

パウロのテモテへの手紙からの今日の聖書朗読の中で、使徒パウロは若い宣教者であるテモテを、神が彼に与えた贈り物を生き生きと保つようと勇気づけます。私たちにも同じことが言えます。聖霊に、この貴重な力、愛、節制の贈り物を育み、神への謙虚な奉仕の中であなたの人生を生きられるように願いましょう。聖霊はまた、あなたが困難にあるときに耐え抜けるように助けてくれるでしょう。

Contemplatio …観想する

使徒パウロのローマの信徒への手紙からの次の 1 節をよく考えてみましょう。

「こういうわけで、兄弟たち、神の憐れみによってあなたがたに勧めます。自分の体を神に喜ばれる聖なる生けるいけにえとして献げなさい。これこそ、あなたがたのなすべき礼拝です。」(ローマ 12 章 1 節)